



彩の山

埼玉支部報 第 38 号

《題字 松本敏夫》

【目次】

「雑感」～山歩き50年～	大山光一	1	安全登山講演会	小玉和孝	23
山行報告			「尾瀬 原の小屋 管理人の話」		
第3回岩トレ	朝井紀久子	3	山岳古道調査PJ進捗報告	松本敏夫	25
蕎麦粒山	竹下智子	4	平日山行倶楽部		
鍋割山	小玉和孝	5	鉄砲木の頭・高指山	坂倉理恵	29
忘年山行「天覧山」	大野国光	8	破風山	轟涼	30
新年・ウエルカム山行	坂倉理恵	9	山の本棚シリーズ⑥	小原茂延	31
子ノ権現・阿字山	萩原みか	12	ペンリレー 第2回		
奥武蔵縦走	古川史典	14	緑と水と雪が好き！	長谷部康子	33
上州武尊山	古川史典	17	新入会員自己紹介	林 信行	34
自然保護委員会報告			事務局より	林 信行	36
大高取山自然観察会	渡邊嘉也	19	編集後記	橋本久子	37
忘年山行	飯村俊夫	20			
白馬岳自然観察山行報告	横山真一	21			

雑感 ～山歩き50年～

支部長 大山光一

昨年の大きな出来事は、新型コロナウイルスの感染拡大で中止を余儀なくされていた埼玉支部の通常総会並びに日本山岳会の年次晩餐会が三年ぶりに開催されたことです。

埼玉支部は、全国30番目の支部として設立（2010年4月）されました。松本敏夫支部長の後任として、わたしが就任した2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大で通常総会が中止。2021年も同様の対応となり、3年ぶりの通常総会で、支部の会員諸氏とお会いすることができました。

世界中が、新型コロナウイルスに翻弄され、社会構造の仕組みや人々の暮らし方が大きな変化を遂げました。最近のニュースで、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、5月8日から「感染症法」上の新型インフルエンザ等、感染症に該当しない旨、5類感染症に位置づけの変更（新型コロナウイルス感染症対策本部）が発表されました。

この変更に伴い、屋外・屋内におけるマスク着用、等の規制が緩和されますが、基本的には個人の判断に委ねるといいます。会員諸氏に於かれましては、十分な安全確保を促したいと思います。

また、私事になりますが、2022年の年次晩餐会で永年会員の末席に名を連ねることになりました。日本山岳会に1972年11月入会（紹介者：松崎中正氏、推薦者：吉沢一郎氏、当時：日本山岳会副会長）して、半世紀（50年）の長きにわたり在籍することができました。感無量です。仕事と育児で登山から離れた時期もありましたが、再開後は、目標を掲げてチャレンジしてきました。

1960年代後半から登山をしていると、中高年の登山ブームとか山ガールとか小さな盛り上がりはありましたが、50年のスパンでみると登山人口は確実に減少しています。

当時は、週休二日ではなかったもので、前夜発日帰りが当たり前でした。谷川岳の場合、土合駅から旧道を小走りで一の倉沢を目指す。いかに早く南稜テラス、烏帽子奥壁、衝立岩、コップ状岩壁、等の取付点に到着するか。まさに、登山技術よりも岩場の取付きまでが勝負でした。人気のルートは順番待ちの状態、遅い到着は登れないからです。今、国内の岩場でそんな光景に出会うことはないでしょう。

それから、まだ日本に山岳ガイドが存在していない時代、山登りの基本は山岳会に入会して、先輩から山の知識と技術を学ぶのが一般的でした。山岳会の存続は後輩を育て、一緒に登る山仲間づくりでした。

それから冒険的な登山をする人が少なくなった。雨の日の登山やトレースのない雪山歩き、ビバーク訓練とか、安全優先で悪天候やラッセルを体験しなければ、いつまでたっても上達しません。

そして究極の登山は、富士山・北アルプス・南アルプスの3000m峰の冬山登頂です。過酷な自然界と対峙しながら多くの体験と実践を重ねて、自分の可能性を追求する。

その延長線上に、冬の6000m峰や8000mを超えるヒマラヤの高所登山が存在します。ツアー登山や公募隊に頼らず、自らの企画で、ヒマラヤの高所登山を実践する登山者が少ないのが残念です。

一方、山岳会を登山ツアーのサポートと勘違いしている人、また自分でパートナーを見つけるのではなく、お金を払ってガイドに連れて行ってもらうという人が増えていることに大きな抵抗を感じます。

ガイドの数は増えても、登山経歴を見る限り、本格的な厳しい登山を経験したことのないガイドが多く、いざというときに対応できるのか、そんな不安を感じます。昔とは、ガイドの意識や価値観が違ふとすることがあります。山が商業化したということです。

それから、山岳会の衰退は登山人口の減少と、組織運営に関わる煩わしさを嫌う傾向があると思います。現在のように通信手段が発達すると、「有事の時に頼れる」という山岳会の存在価値が希薄になっていると思います。今は未組織の人でも携帯ですぐに警察に連絡ができます。昔なら自分で何とかするしかなかったことが、安易に救助要請となり遭難未済のトラブルが増えています。

「昭和」、「平成」、「令和」と時代が変わりましたが、脳裡に甦るのは50年間、五体満足で山歩きができたことを嬉しく思っています。

【山行報告】11月「山行リーダー勉強会 第3回岩トレ 平戸の岩場」

山行委員 朝井紀久子

*日時：2022年11月26日(土) 10時00分~15時00分頃

*場所：平戸の岩場(埼玉県飯能市東吾野)

*参加者：生田詳子、渡辺徹也、高倉洋一、磯崎佳奈、宮田しのぶ、
吉田由美、朝井紀久子、轟涼(L) 計8名

*天候：曇り、風ほぼ無し

*内容：岩場を歩く為の3点支持を、トップロープを使って練習。今回、初心者が多かった為、基礎的なエイトノットやカラビナの扱い、ハーネス装着等、説明を受けながら行ないました。

それらは今後の自宅学習なども推奨し、今回は早めに岩登りへと進められました。トップロープは2か所設置され、



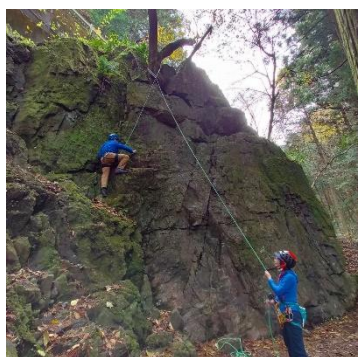
登山靴で登れる所とクライミングシューズで挑戦する

所、またザックを背負って登り、クライムダウンで下る練習など、各自が自身で出来る段階まで行いました。



最初にトップロープの設置で、経験を積まれている生田さんがリードと支点確保を、そしてリードビレイを轟L。トップロープよりも危険なので、皆「凄いなあ」と感心しながら、興味深々で見つめます。そして、準備して下さる事に、皆で感謝でした。

今回の参加者は、トップロープでの岩登りがメインで、ビレイは経験者が行いました。でも終了時には「次回からはビレイもさせて頂きます」と意欲が聞かれました。



体の向き、手足の支持など、ドキドキしながら、段々ワクワクに変わっています。トップロープに身体を預けての下りも、少しずつ慣れていきました。



ザックを背負うとバランスがまた違う事が分かる。また、ロープに頼らず手足でクライムダウンするのは、登るよりも難しい！でも出来るだけ岩稜帯への実技感覚を入れていきたい。



初体験で、もっとやりたくなった人、怖かった人、少し擦り傷が出来た人などいましたが、皆さん、楽しんでいました。慣れてくると、自分でどんどん、課題を設けてステップアップを図っていけそうです。

【山行報告】 11月度 埼玉50山「蕎麦粒山」

山行委員 竹下智子

- ◆日 程：2022年11月12日(土)
- ◆場 所：埼玉県 奥秩父 蕎麦粒山(1472.9m)
- ◆参加者：(敬称略) 橋本久子、立原由子、(CL) 朝井紀久子、(SL) 古川史典、
(SL) 竹下智子
- ◆行 程：セブンイレブン 西武秩父駅前店 駐車場 7:20 集合
8:00 仙元尾根登山口→11:50 仙元峠→12:15 蕎麦粒山山頂(昼食) 12:45
→13:05 仙元峠→16:00 仙元尾根登山口(下山) 山行終

秋晴れの清々しい朝、集合場所から車に乗り込み、街を抜けます。30分くらい走ると登山口の脇にある浦山大日堂バス停が見えてきます。そこから少し離れたところに車を止めて、身支度です。ストックに緩みがないよう入念にチェックしました。

この参加者5名で、ここ仙元尾根に続く大日堂登山口から、あの蕎麦粒山の頂上を目指します。浦山大日堂は埼玉県指定無形民俗文化財である獅子舞が行われるところで、例年そのときは参加者やカメラマンで賑わうらしいのですが、本日、この時間帯にこの場所から出発する登山者はこのパーティーの5名だけでした。

出だしの登山道は急登ですが、途中までは東電の送電線の巡視路と重なっているの、比較的整備されています。息が上がらないようにゆっくりと確実に足を



を進め、ひとつ目の鉄塔にたどりつき、衣服の調整をしました。常緑樹の緑色と、黄色から紅色の紅葉とが目を楽しませてくれます。それからススキの藪のトンネル。そのトンネルを抜けて、3つ目の鉄塔の元を通りすぎると、道は巡視路から外れ、細くなり、トラバースしながら高度を重ねていきます。秋の登山道にありがちの、落ち葉に覆われているせいで登山道が分かりにくくなっている箇所がありました。

迷わぬように方向を確認しながら進みました。加えて、このトラバースコースは崩れかかっているために2つに分かれている所もありました。どちらを選んでも結局は元の登山道に戻りますが、いずれも細く足場が悪い道で落ち葉の下には木の根やゴロ石が隠れており、慎重さを要求されました。

樹林帯の登山道を登りきると、小休憩ができる大樽にでます。そこからは日が差して気持ちのよいルートになります。ところどころ展望がひらける箇所もあります。しばらく進むと、激しく崩落した箇所がでてきます。崩落箇所からの展望は素晴らし



いのですが、土が甚大に抉られているので、大きく巻きながら通過して、やっと蕎麦粒山の山頂が見えてきます。ここから一旦鞍部まで下りて、登り返して山頂に到着です。



蕎麦粒山の山頂には大きな岩が点在しており、この山容が蕎麦の粒に見えるからその名前がついたという説があります。可愛らしい名前の山です。下見時の山頂はガスに覆われて何も見えず、唯々登り、そして唯々降りて、



いわば鍛錬登山だったのですが、今回は遠くまで続く防火帯まで見渡せるので、登りが報われました。山頂には別ルートからの登山者がいて、少しだけ賑わっていました。山頂の蕎麦粒に腰かけて、昼食を済ませたら、同じルートを下山します。ストックも再度入念に確認しました。下山は疲労も加わるので、道迷いと滑落しないように緊張感を保つように努めました。そして予定どおり 16 時ちょっと前、登山口に到着です。総行程約 8 時間、標高差約 1,024m、全員、無事踏破。

水飲み休憩中にトランシーバーの使い方を学びました。トランシーバーはリーダーやサブリーダーを担当しない限り、なかなか触ることがありませんが、いざというときに誰もが使えないと意味がないので、学ばいい機会でした。

またリーダーの朝井さん、サブリーダーの古川さん、橋本さん、立川さん、みなさんのおかげで楽しい時間を過ごせました。アドバイスに、柿も頂きありがとうございます。好天に恵まれ、紅葉と柿とで、2022 年里山の秋を満喫の充実山行でした。

【山行報告】 12 月度 月例山行「鍋割山」

山行委員 小玉和孝

初冬 12 月の始めに丹沢山系南部に位置する鍋割山に登りました。

まずは大倉バスターミナルから 1 時間半程、まだ晩秋の紅葉が残っている林道を進んで行きました。鍋割山荘にボランティアで鍋焼き用の水を担ぎ上げるボトルが置いてあるワゴンを過ぎると、沢沿いに急登が始まりました。

その後、緩急を繰り返し、約 2 時間で山頂に到着しました。

山頂からの富士山の眺望が抜群でした。

念願のなべ焼きうどんも賞味することが出来き、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

下山もスムーズで、2 時間 45 分程で大倉バスターミナルに到着して解散となりました。

今回、9 名での山行でしたが、お天気にも恵まれ誰一人として遅れることなく、和気あいあいの大変楽しい 1 日となりました。

1. 日 程 : 12 月 4 日 (日)
2. 場 所 : 鍋割山 (神奈川県 1,272m)
3. 参加者 : 小玉 和孝 (CL)、生田 詳子 (SL)、行方 真由美、古川 史典、吉田 由美
高倉 洋一、立原 由子、萩原 みか、町田 美春
4. コースタイム : 大倉 8 : 30 → 二股 10 : 00 → 後沢乗越 11 : 00 → 12 : 00 鍋割山
鍋割山 13 : 00 → 後沢乗越 13 : 40 → 二股 14 : 30 → 15 : 45 大倉



沢沿いに急登が始まる



鍋割山山頂での記念撮影



山頂より富士山を望む



鍋割山荘の鍋焼きうどん

<参加者の皆さんからのひとこと>

行方真由美

紅葉も終わりを迎えてモミジだけ赤く陽の光に輝いて落葉した木の間からは相模湾と冠雪の富士山が見えました。山頂では念願の鍋焼きうどんを食べながら冠雪の富士山を眺める贅沢な時間でした。長い林道歩きも親睦を深める時間で楽しくて良かったです。山行担当の小玉さん生田さんありがとうございました。

古川史典

水系の本谷沢、源次郎沢や勘七ノ沢等毎週のように通い詰めていました。しかし鍋割山に登った記憶がない。多分高校生お金がなく「鍋割うどん」食べなかったからかな。いずれにしろ一緒に登った人は違えど山は変わらず迎え入れてくれたことに感謝です。

吉田由美

お天気に恵まれ紅葉も景色も最高でした。山の歩き方やマナーを教えていただいたり大変お世話になりました。後半の登りでは、体力の無さを実感！もっとトレーニングしていろいろな山行に参加したいと思います。

高倉洋一

この山行の数日前に日本山岳会の会員カードを頂き、晴れて会員として山行に初参加させて頂きました。当日は、大倉バス停から二俣まで林道を進み、その終点に置いてある水（多分、4ℓ）をザックに入れて登り、よいトレーニングになりました。山頂から望む富士山の頂には雲こそかかっていましたが、丹沢山、塔ノ岳もよく見え、快適な山歩きを楽しむことができました。これから体力をつけ、少しずつ山遊びの幅を広げていきたいと思っています。

立原由子

私は鍋割山初めてでした。集合場所に 7 時半に着けるかが私にとって課題で、前日はあまり眠れない程でした。家を 4 時半ごろ出て、電車に乗り、集合場所の渋沢駅に着いたときは誰もいなく、リーダーさんにお会いしてほっとしました。バスで大倉まで行き、歩き出す。往復 16 キロ、歩けるかな？と不安も感じましたが、筋肉痛にもならないで歩くことができました。鍋焼きうどんにつられて歩いた次第です。しかしながらちょっとガッカリしました。お天気にも恵まれ、富士山も見えてよかったです。下りも順調で楽しい山行でした。

ありがとうございました。

萩原みか

丹沢山系は埼玉県からは遠くなかなかハードルが高い。まず登山口にたどり着くまでに体力を消耗してしまう。今回はその懸念を払拭すべく家族に集合場所まで送ってもらった。そのおかげもあってか、この 1 年で体力もついたのか。今回は自分でも少し余裕があった。晴天に恵まれた富士山の絶景のおかげか。しかし鍋焼きうどん用の水のペットボトルを歩荷できるほどではなく、先輩方のように 4 リットルを山頂まで上げられる様に努力せねばと思いました。担当、同行の皆様ありがとうございました。

町田美春

初冬の晴れ間に鍋割山山行に参加させて頂きました。まだ紅葉も残っており赤や黄色の葉色が青空に映え、とても奇麗でした。山頂からは富士山の雄姿を望み、名物の鍋焼きうどんも堪能でき最高な一日でした。久しぶりの山行には丁度良いコースでした。おしゃべりをしながら楽しい山行でした。

生田詳子

今回のテーマは、「鍋焼きうどんを食べに鍋割山へ」のはずでしたが、鍋焼きうどんは食べませんでした。美味しそうなを見てちょっと後悔しました。天気が良く富士山もよく見えて、バツグンの景色でした。参加者の皆様、リーダーの小玉さん、楽しく歩いて、ご一緒できて、ありがとうございました!

**【山行報告】忘年山行「天覧山・多峯主山」・懇親会に参加して
会員 大野国光**

2022 年締めめの忘年山行は、12 月 17 日（土）に飯能市の天覧山・多峯主山登頂、その後に同市内の中華レストラン王記で懇親会が開催されました。

24 名の参加で飯能駅 10 時スタートし、最初の目的地天覧山を目指します。天覧山は標高 195m の低山ですが、登山道も良く整備されていて山頂からの眺望は良く、小さいお子さんとの親子登山にも人気がある山です。最近ではアニメ「ヤマノススメ」の聖地巡礼の地としても人気です。飯能駅から 20 分ほど一般道を歩き登山口へ、登山口からは整備された登山道を 10 分ほどで中腹に到着。広場・東屋・トイレも整備されており小休止。そこから、小さな岩場を登っていっきに登頂です。岩場には、徳川 5 代将軍綱吉の生母、桂昌院が奉納した 16 羅漢像があります。以前この山は「羅漢山」と呼ばれていました。その後明治天皇が軍の演習を視察するため登頂してから「天覧山」と呼ばれます。



右隅が大野 国光会員

この日は、雨の心配もありましたが、曇り一時青空がのぞく山行には良好な天候でした。残念ながら富士山は望めませんでした。天覧山で記念撮影後、次の目的地多峯主山に向かいます。トウノスヤマと読みます。私は地元出身ですが、最近まで読めませんでしたし、場所も知りませんでした。今回初の登山です。天覧山山頂から滑りそうな急坂を下り湿地に出ると、そこから右に折れ緩やかな登りになります。登り始めたところに、この地域にしか生息しないと言われる飯能笹が出現します。飯能笹の案内もあります。そこからはちょっと急な木段が続きますが、10分ほどで山頂に到着します。天覧山からの眺望もなかなか良かったですが、多峯主山山頂からの眺望は、さらに素晴らしい眺望です。天覧山が標高 195m、多峯主山が標高 271m とどちらも 300m に満たない低山ですが、どちらも眺望は素晴らしいです。都心のスカイツリーから富士山（この日は見えませんでした）、秩父山地まで眺めながらの昼食は、非日常を満喫できます。お勧めです。

多峯主山でランチ休憩後下山に足を進めます。下山ルートは、江戸時代この地の領主黒田直邦公の墓所を経て、御嶽八幡神社から御嶽八幡神社登山口までを取りました。黒田直邦公の墓所を過ぎて、「雨乞い池」を見下ろすところにトイレも整備されていて安心です。登山口からは一般道を次の目的地へ向かいます。途中飯能市立博物館を見物、小休止して最終目的地に向かいました。最終目的地は、懇親会場の中華レストラン王記です。王記は、飯能在住の会員児嶋和夫さん、町田美春さんから推薦を頂きました。飯能駅北口から徒歩3分、近くて安くて美味しくボリュームもあります。こちらもお勧めです。紹興酒を美味しく頂きました。懇親会には 20 名の方が参加されました。皆様楽しいひと時と過ごされたと思います。ご長老の右川清夫さんのご挨拶を始め、皆さんに多くの元気を頂くことが出来ました。有難うございました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

山行報告と感想を含め、昨年入会新人の大野国光が報告させて頂きました。

【山行報告】新年・ウエルカム山行「鐘撞堂山」

山行委員 坂倉理恵

- ◆日程：2023 年 1 月 14 日(土)
- ◆目的の山：埼玉県 鐘撞堂山 329.8m
- ◆参加者：米山英三、稲越洋一、磯崎佳奈、宮崎則子、高倉洋一、小玉和孝、中村直樹、
鴨志田隼司、林信行、立原由子、浅田稔、山崎保夫、吉田湖恵、土田利恵子、
吉田由美、平本真二郎、平本美恵子
CL 坂倉理恵、SL 古川史典 計 19 名
- ◆天候：曇り
- ◆行程：秩父鉄道 桜沢駅 9：30→ 9：40 八幡大神社にて自己紹介、初詣で安全登山祈願 10：05
→10：20 八幡山→ 11：25 鐘撞堂山 山頂にてランチ、委員会・同好会紹介 12：30
→13：00 大正池→ 13：40 寄居駅 (行程総時間 4 時間)

2023 年最初の「新年・ウエルカム山行」が鐘撞堂山で行われました。この山行は「新年山行」と、前年に入会された方を歓迎する「ウエルカム山行」を兼ねており、ピークハントを目的とした通常の支部山行とは少し異なり、親睦の意味合いが強いものです。

登山口にある八幡大神社（桜沢コミュニティーセンター駐車場）で全員が集合。まず始めに、ここで自己紹介をしました。お昼頃から雨になる予報だったため、下山のルートを「円良田湖→波久礼駅」ではなく、早く下りられる「大正池→寄居駅」に変更したい旨を伝え、参加者の皆さんにご了解いただきました。



登山口で自己紹介



八幡大神社で初詣



八幡山付近で休憩

その後、神社にて全員で初詣。2023 年の安全登山を祈願しての出発となりました。

始めの 15 分は結構な急登。身体も温まった頃に八幡山に到着です。葉が落ちてすっきりした木々の間から、時折覗かれる眺望に気持ちが昂ります。山頂が近づくと何度も階段が出てきましたが、全員、巻き道を使わず登頂しました。

人気の山だけあって、天気が悪いにも関わらず、山頂にはたくさんの方がいましたが、狙いの東屋になんとか席を取ることができ、そこで今日のメインイベントである、委員会・同好会のご紹介タイムとなりました。

今回の準備にあたり、どうやって新入会員の皆さんを「ウエルカム」したらいいのだろう…、そのことが一番頭を悩ませました。本来の CL 生田さんと打ち合わせを重ね、プレゼントは参加者全員にお菓子の詰め合わせ（カルディで購入した干支の兔のようかん他数点）を。新入会員の方には、その袋の中に一言メッセージを添えたカードを入れさせて頂きました。

そして内容については、新入会員の方が、知らない人ばかりの中に飛び込む不安を拭い去り、少しでも溶け込みやすいきっかけになればと、委員会と同好会をご紹介しました。入会時に事務局から一通りの説明があり、既に所属が決まっている方もいるようでしたが、実際そこで活動している会員から生の声を聞くのもよいかと思い、参加していた各会、倶楽部の代表者の方に話をして頂きました。



縦走路を登る



もう直ぐ山頂



山頂の東屋で休憩

今にも雨が降り出しそうな曇天であるのに、空気は澄み渡り、360度の眺望からは、秩父の街並みや雪を被った白根山まで確認することができました。



1時間ほどの山頂での滞在後、寄居駅に向けて下山開始。一瞬、ぱらぱらと小雨が落ちてきましたが、降り続けることはなく、大正池のトイレで小休止をし、雨に濡れることなく寄居駅近くで解散致しました。



本来の CL であった生田さんは、急用のため参加できなくなりましたが、一緒に準備を進めて頂いたことに感謝申し上げます。代理の CL になった私をフォローしてくださった山行委員の古川さんには、時間がない中、的確なアドバイスを頂戴

し、無事に当日を迎えることができましたことも併せてご報告させていただきます。ご参加の皆さまのご協力にも感謝です。

CL. 坂倉理恵

【参加者の感想文】

■年末年始になまった身体に心地よい山歩きになりました。2021・2022 年度に入会したこの日の参加者へは、一人一人の名前を書いたカードを入れたかわいらしいお菓子の包みまで頂いて温かく歓迎して頂き、本当にありがとうございました。(高倉 洋一)

■お天気の心配もあり、不安な気持ちで電車に乗っていましたが、集合場所で皆さんの顔をみたらそんな不安も吹き飛び、おやつまでいただいてルンルン気分で歩き出しました。山頂では、同好会の説明をしていただき、どれも参加したくなりました。皆さんに付いて歩けるように体力をつけて楽しく参加していきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。(吉田 由美)

■初詣した八幡神社から早々の御利益か雨にも降られず無事に下山出来ました。CL、SLさんの心遣いや諸先輩の楽しいお話で新入会員の緊張もほぐれ楽しい山行でした。有難うございました。(宮崎 則子)

■2022 年 4 月に入会しました。自然の花や緑、景色に癒やされたくて登山を始めました。今年初の山行で支部山行の参加は 3 回目になります。まだドキドキ感ありました。登山口でお参りをした八幡大神社は立派で安全祈願のご利益ありそう…登山道は歩き易く楽しくウォーキングできました。

また皆さんとご一緒できるのを楽しみにしています。山行委員リーダーさん他サポートしてくださった方々のご尽力に感謝いたします！（吉田 湖恵）

■ウエルカム山行の鐘撞堂山に参加してきました。埼玉県内に低山ながらミニ縦走ができ変化のある楽しい山があるなんて知りませんでした。和やかな山行で楽しかったです。自分ではあまり知らない山に登れるのが山岳会入会のきっかけでした。これから色々な山に登りながらスキルアップしていきたいです。（平本 美恵子）

■ウエルカムプレゼントまでご用意いただき、いたれりつくせりの山行でした。各委員の活動についても丁寧に説明していただき、今後何ができるかととても楽しみです。ありがとうございました。（磯崎 佳奈）

■山岳会に入り初めての山行(鐘撞堂山)に参加致しました。グループでの登山は殆ど経験がありませんでしたが、皆さん明るく接して頂き楽しい山行でした。今後も積極的に山行イベントに参加させて頂きまますので、今後も宜しくお願い致します。（平本 真二郎）

■曇天の中ウエルカム山行という事で新入会員を歓迎する立場で参加しましたが、今回担当の生田さん、坂倉さん企画がとても良く、集合場所の桜沢駅で個々の名前入りお菓子セットを配布、頂上では委員会と同好会の紹介と手の込んだ演出がなされ、新入会員の方々も埼玉支部の概要が分かったのではないのでしょうか。山でお会いしましょう。（S.L. 古川 史典）

【山行報告】 2 月度 月例山行「子ノ権現(阿字山)」

山行委員 萩原みか

子ノ権現（阿字山） — 浅見茶屋で冬期限定鍋焼きうどん—

令和 5 年 2 月 5 日（日）

担当：行方・萩原

【集合】：西武秩父鉄道 西吾野駅 9 時 10 分 トイレ

【行程】：9 時 20 分 西吾野駅 出発

10 時 40 分 阿字山山頂 集合写真撮影

10 時 45 分 子ノ権現山門 トイレ

11 時 00 分 子ノ権現 奥の院(鐘撞堂) 子ノ山

11 時 15 分 昼軽食休憩

11 時 45 分 滝不動方面へ下山

12 時 20 分 浅見茶屋到着 順番待ち

14 時 00 分 歓談 鍋焼きうどん堪能

15 時 05 分 吾野駅解散

(芦ヶ久保駅行き 15 時 09 分発の電車に乗り芦ヶ久保駅から兵の沢氷柱見学 3 名)

【反省・感想】

西武秩父鉄道の時刻表が 1 月下旬に改正されたようで、電車到着が 9 時 9 分、集合までに 1 分となくなってしまった。集合出発時間に多少のズレが生じた。登山道、立ち寄り場所の事前情報のチェックを念入りにしたつもりが、足らなかったと反省。

当日は天気恵まれ、数日前の降雪も問題なく凍結の残る場所も全くなかった。子ノ権現裏の軽食休憩をとった日当たりの良い場所では、目当ての福寿草の群生が満開だった。以前東京のボランティアさん方の春秋の手入れに遭遇し、大輪が咲く大株にするには数年かかることなどのお話を

伺った事を伝えた。それから、白い手の造形物は以前は無かったこと、大わらじは本物の藁作りであった事などを聞いた。

浅見茶屋では寒く長い待ち時間が、登山にまつわる歓談が尽きなかったので、世代の幅があるグループ登山の面白さだと思った。浅見茶屋の鍋焼きうどんは待ち時間とお高め価格を超える美味しさと全員から好評を博し、ホッとした。

冬期の山行はじっとしているだけで寒い。電車を待つ時など、帰路につく時刻まで考慮し、体温保持の装備が必要と再認識した。(携帯カイロなど)

萩原 記



子の権現・阿字山



子の権現名物・おおわらじ



福寿草 群生



日当たりのベンチで軽食



浅見茶屋 会食



名物「鍋焼きうどん」

参加者の感想

今日はお天気もよく、気持ちよく山道を歩けました。山岳会についてのお話を聞かせて頂いたり、とても有意義な楽しい山行でした。山行委員会の皆さま大変お世話になり有り難うございました。念願の浅見茶屋のうどんも、最高でしたー。 吉田由美

足腰のお守りを買って、今年も楽しい登山ができるようお願いしました。鍋焼きうどんも食べることができました。天気も良く、日頃のぐちゃぐちゃ完全リセットできました。リーダーの皆様本当にありがとうございました。 磯崎佳奈

子の権現には約 20 年前に伊豆が岳を経て行ったことがあったのですが、ほとんど記憶には残ってなくて、頂上に着いてなんとなく思い出した次第です。福寿草が咲いていて感動しました。お花屋さんで植木鉢に咲いているのしか見たことがなく、福をいただいたような感じです。雲一つない青空で、歩いている人も少なく、楽しい山行でした。目的の鍋焼きうどんは約 1 時間半待ちでしたが、最高の鍋焼きうどんで美味でした。待った甲斐がありまして大満足でした。計画していただきましたリーダーさんに感謝申し上げます。 立原由子

子の権現というと、伊豆ヶ岳からの縦走で 10 回以上行っていますが、いつも昼食を摂る石仏のあるところが「阿字山」だったなんて、今回初めて知りました。そして下山も通常は西吾野に下るのですが、吾野へ下る途中の「浅見茶屋」、ここも今回の山行の目的のひとつで、寒い時期の名物「鍋焼きうどん」は大満足でした。計画して頂いた萩原さん、行方さん、目の付け所が違いますねえ。時にはこういう企画もいいもんですね。 稲越洋一

「子の権現～浅見茶屋」の月例山行。今回「うどん食い」の小生としては以前から気になっていたお店です。早速担当の萩原さん、行方さんに参加の依頼。当日は子の権現に立ち寄り、予定よりやや早めに浅見茶屋に到着。冬季限定の鍋やきうどんをご機嫌に注文。しかし数人待ちと思いきや、待てども待てども我が期待のなべ焼きうどんはなかなか出てきません。注文して 2 時間ほど待ったでしょうか…個人的にはやや値段的には高いか～との気もしましたが、何処かで神の声が「それなら自分でうどんを打って、てんぶらを揚げ、汁のだしを取り、いろいろな具を入れて…自分でそこまでやってみなはれ」なるほどおっしゃる通り、念願の浅見茶屋のなべ焼きうどんは金額に見合う絶品でした。 林 信行

立春の翌日の山行とはいえ日が当たらないとまだまだ寒い日中でしたが日向は大分暖かく子の権現の福寿草も見頃を迎えていました。子の権現 天龍寺にお参りをして奥の院で鐘付とスカイツリーまでの眺望を楽しみました。浅見茶屋では待ち時間が長くなってしまいましたが冷えた体に暖かい鍋焼きうどんは格別の美味しさでした。参加者の皆様、至らない点もありましたがご協力頂いてありがとうございました。 行方真由美

【山行報告】埼玉 50 山「奥武蔵縦走」

山行委員 古川史典

大高取山 (376.2)・鼻曲山 (447.3)・越上山 (566.3) グレード ☆☆

前日、南岸低気圧の影響で埼玉県大雪警報が発令され、雪の影響を感じながら登りはじめました。しかし当日は、晴れ気温も上昇しルート上では残雪も少なく、水溜りを避けながらの登山でした。計画表には、2 月と言う時期でもあり当初から軽アイゼン持参と参加 11 名 (参加希望者 13 名担当

2名計15名でしたが前日までに4名の不参加連絡があった)に連絡してあり装着は、桂木峠～鼻曲山先の岩場手前までで安全を期しました。

結果、予定の三山を登り無事顔振峠に到着、黒山方面(6名)と吾野方面(5名)に分散下山しました。

1. 日程：2023年2月11日(土) 晴れ
2. 場所：「大高取山」「鼻曲山」「越上山」山と高原地図《奥武蔵・秩父》
3. 集合：午前9:00 越生駅(東武東上線・JR八高線)
4. 実行程：越生駅(9:00)→越生神社裏登山口(9:15)→白石様(10:10)→大高取山(10:40)→桂木観音(11:10)→鉄塔《昼食》(12:20)→鼻曲山(13:00)→一本杉峠(13:45)→越上山(14:30)→諏訪神社経由顔振峠(15:25)→A班：顔振峠(15:35)→黒山バス停(16:38)→越生駅(17:12)解散
→B班：顔振峠(15:35)→吾野駅(16:45)解散
5. 歩行時間：約7時間強
6. 装備：日帰り山行装備、雨具、ライト、昼食、行動食、マスク、アルコール消毒液、軽アイゼン
7. 参加者：11名 CL古川、SL町田、稲越、浅田、宮崎、吉田(由)、吉田(湖)、立原、平本(真)、平本(美)、土田(敬称略)
8. 記録



大高取山



鼻曲山へのルート上



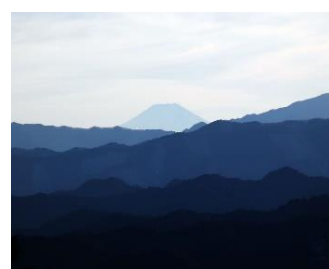
鼻曲山



越上山



越上山頂手前岩場



顔振峠からの富士山

作成:CL古川

参加者の感想

A0416 町田美春

前日の降雪の影響でぐちゃぐちゃ悪路でしたが、当日は晴天となり気温も上がり気持ちよく歩きました。軽アイゼンの装着の仕方や、歩き方を先輩方からご指導頂きとても勉強になりました。初めてのSLで先導は正直大変でしたが、良い勉強になりました。サポートして下さった先輩方、参加者の皆様に感謝です。

A0515 土田利恵子

前日の雪で所々悪路でしたが楽しい山行でした。古川さんの岩場でのワンポイントアドバイスも参考になりました。ありがとうございました。

16547 立原由子

前日雪が降り、きっと中止かなと思っていましたが、アイゼンを装着したり、準備しました。幸いに夜は雪もやみました。当日早めに起きてチェーンアイゼンを装着して出かけました。集合場所の越生駅に着き、東口と西口があって、誰もいなくてまた不安になりました。町田さんとお会いしたときはほっとしました。お天気になりまして、楽しく歩くことができました嬉しかったです。行く前地図を見て調べたときは、歩けるかなと不安でしたが、楽しい山行でした。ありがとうございました。

A0507 吉田由美

山行委員会の皆さま 大変お世話になりました。歩きごたえがありトレーニングに最適、前日には雪が振りアイゼンの装着や歩き方、岩の下山の仕方など丁寧に教えて頂きました。楽しい写真も沢山撮ってくださり有り難うございました。

17005 平本真二郎

今回は前日の雪(大雪?)でどうなるかと心配していましたが、朝から晴天に恵まれての気持ちの良い山行となりました。装備品のリストにアイゼン有り、途中から全員がアイゼンを装着しての訓練となっています。距離のあるコースで、手ごたえを感じながら大満足の山行でした。

16911 浅田稔

桂木観音と一本杉峠の間を歩いてみたかったので参加を決めました。前日の降雪で軽アイゼン使用の歩行となりましたが、装着と着脱のタイミング指示が的確で、楽に歩くことが出来ました。昼食をゆっくり摂る時間もない長時間の歩行も充実した山行でした。

A0509 宮崎則子

低山の縦走なら大丈夫かな?とと思って参加しました。桂木観音から顔振峠、吾野駅までは初めてだったので少し緊張しましたが楽しく歩けました。歩きながら皆さんとお話が来て、山岳会の事も色々知ることが出来ました。又予想外の積雪でアイゼンを付けた歩き方、岩場での手足の置き方のご指導などとても良い勉強になりました。今後ともよろしく願いいたします。

8317 古川史典

昨日の雪がルート上に残っているか心配の登山でしたが、気温も高くなり残雪も少なく軽アイゼン装着の登山で、参加者 11 名が大高取山、ほぼ景色を見ることができないレアな鼻曲山と越上山に登り、そして元気に顔振峠に着き、吾野方面と黒山方面に分散下山をした、思い出に残る登山でした。

14647 稲越洋一

何度も登っている大高取山～桂木観音、顔振峠ですが、そこを結ぶ縦走という事で、興味を持って参加しました。途中、桂木山、椎木山、鼻曲山、一本杉峠へと、なかなか侮れない急登や岩場が現れ、また前日の大雪の名残りでアイゼンを付けた雪原歩きと、バラエティに富んだ山行でした。CL・古川さんのトレーニングコースというのも領けます。新入会員も多く参加したので、良い経験になった事でしょうね。

17006 平本美恵子

前日の雪を心配していましたが、晴天のもとロングコースの縦走登山はアップ・ダウンの連続でなかなか大変でした。でも、雪の中のチェーンスパイクや岩場の通過など変化があつて楽しかったです。1/16500の地図上でコースを見たときにはあまりにも長いコースでクラクラしましたが、無事に完歩できました。

A0429 吉田湖恵

前日の大雪で山行は決行されるのか、私は集合場所まで辿り着くことが出来るのか…とずーっと心配でドキドキでしたが当日は無事に越生駅に到着できました(初めての越生線)。今回の奥武蔵縦走は低山でありながらアップ・ダウン、難所があり、歩行距離も 14km となかなか歩きごたえがありました。また初めてのアイゼンはよい経験となりました。(古川さん ありがとうございます)。お天気に恵まれ展望の良い所もたくさんあり充実したとても楽しい山行となりました。思い切って参加して良かったです。

【山行報告】 3 月度 月例山行「四季の山・冬山 上州武尊山」

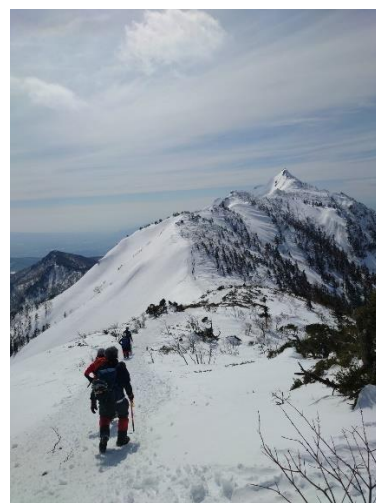
山行委員 古川史典

四季の山冬山 上州武尊山 (2158m) グレード ☆☆☆

早朝の関越高速道の渋滞を避ける目的で、前夜仮眠宿泊をしました。翌日朝のリフト 券売り場にある登山者用窓口には長蛇の列ビックリ。リフトを乗り継ぎリフト終点登山 出発場迄登りそこからいよいよアイゼンを履きとピッケル持ち長蛇の列に入り最初の剣ヶ峰山への急登を登る。頂上の狭い場所に順番を待ち今回のポイントである岩と雪のミックスの崖をバックで慎重に降りる。後は UPDOWN を繰り返し、混雑している 360 度景色の頂上に立つことができた。下山まずは、遠く見えている剣ヶ峰山へ、急登を登りピークを越し無事リフト終点に到着した。真っ白な雪とマウンテンブルーの空の色、エビのしっぽに感動したのも良き仲間がいたからこそその登山でした。

注：橋本さん文一部引用

1. 日 程：2023 年 3 月 5 日（日）無風快晴
2. 場 所：上州武尊山 (2158m)
3. 集 合：前夜泊として「沼田健康ランド」に仮眠宿泊、翌 5 日午前 8 時川場スキー場
4. 実行程：8：45 川場スキー場スキーリフト「桜川 XP・クリスタル XP」発→9：35 剣ヶ峰山→11：22 上州武尊山山頂→13：34 剣ヶ峰山→14：00 「桜川 XP・クリスタル XP」着
5. 歩行時間：約 5 時間 20 分（含む休息）
6. 参加者：5 名（敬称略：CL 古川、SL 生田、山崎、橋本、朝井）
7. 参加条件：冬山経験者、アイゼン・ピッケル等冬山装備持参者で練習等された方
8. 装 備：冬山装備（冬靴・冬山防寒具・アイゼン・ピッケル・ライト、昼食、行動食、マスク、アルコール消毒液等）
9. 記録



作成：CL 古川

【参加者の感想】

16586 朝井紀久子

昨年、友人達と初トライした時に、バス渋滞で登山開始が遅れ、更に天候が下り予報、少し疲労ぎみの人もいる、という状態で、ベテランの方の判断で途中で引き返しました。その時に、雪山の判断の難しさを感じ、今回、悪天であったら再度、判断の勉強をしたい事、そしてもし好天であれば美しい真っ白な稜線と山頂に行きたいと思っていました。結果、今回は、最高のロケーションでの登頂となりました。本当にありがとうございました！

16551 生田祥子

青い空と白い山のコントラストが美しく、風も無くポカポカな天気で、とにかく最高の山行でした。CLの古川さんからは、雪山についての教えをとこところで教えていただき、充実感満載でした。参加者の皆さん、本当にありがとうございました！

15954 山崎保夫

久しぶりの雪山でした。快晴の天気恵まれ、朝の空気を胸いっぱい吸い込むと少し冷たくなりこの空気懐かしいと感じました。

稜線を望むと蟻のような登山者の姿が見える。遥かなる山の頂を望み、頑張ろうと意気込み足が軽やかになり、楽しい気分です。頂上から見た日光連山、上州の山々等、こんな良い天気、神様が与えたと言えない雲一つない眺め、ああ、来てよかった。と心の中で思わず口ずさみ、感動しました。古川さんリーダー有難うございました。橋本さん、生田さん、朝井さん、一期一会の山行有難うございました。

14909 橋本久子

久しぶりの雪山登山で真っ白な雪とマウンテインブルーの空の色、そして懐かしいエビのしっぽに感動した。アイゼンの噛む雪の感触も心地よくこの山行も素晴らしい思い出になるはずだった。だが、暗転。持病のような脚の吊りに襲われあと少しで頂上というところで足が全く動かなくなってしまった。芍薬はもちろん、ロキソニンや見知らぬ青年からのローヤルゼリー入りの強壮剤(?)などを投与、ようやく頂からの白く輝く山脈を眺めることが出来たのである。辛抱強く付き合ってくくださったパーティーの皆さんに感謝します。

8317 古川史典

久しぶりの雪山。12本歯アイゼンとピッケルでの登行、アイゼンのギシギシ音ピッケルを雪上に刺した時のきしみ音すべてが安心をもたらしてくれました。年に何回もないだろうと思われる無風快晴360度の景色、すべてが良き仲間がいたからこそと思います。ありがとうございました。

【自然保護委員会報告】第 10 回 大高取山自然観察会(秋)
 自然保護委員長 渡邊嘉也

開催日：2022 年（令和 4 年）11 月 27 日（日）

天 候：晴

場 所：越生市大高取山

観察資料：秋の観察会「大高取山の地質・植物・史跡 別途添付

参加者：

吉田寛治、大山光一、松本敏夫、龍久仁人、渡邊嘉也、横山真一、金丸一豊、高橋努、轟 涼、林信行、渡邊泰子、石井和春、飯村俊夫、大友寿郎、露崎治子（公募）、足立原 章、松尾 渡、萩原ミカ、中井眞行（公募）、宮崎則子、磯崎佳奈、大野国光、中村直樹 23 名

支部長の挨拶、観察ポイントの説明の後、横山山行リーダー、石井、金丸サブリーダーの下、出発、植物は中村直樹、龍久仁人、地理（地勢）は吉田寛治、史跡、遺構は松本敏夫が講師を務めた。観察のポイントは、地理・地層では八王子断層・越生断層・伏在断層・クリッペ・堆積岩・変成岩や越生町（河岸段丘）～丘陵地形・洪積台地・沖積平野等、又、史跡・遺構は法恩寺・越生神社・虚空蔵尊・越生一族や行基、修験道に因む子ノ権現、金・銀明水である。

また植物はフユイチゴ、シダ、カン、ナラなどブナ科の木本など。

これらを添付「大高取山自然探勝ガイドマップ」に沿って観察会を行った。

観察は：

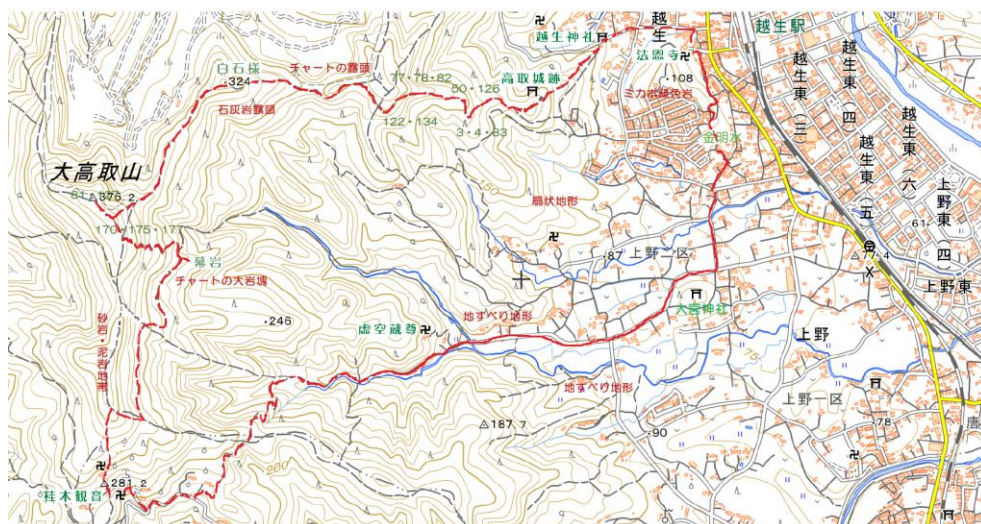
法恩寺出発（9：15）→上田・御堂ヶ谷遺跡→越生神社→高取城跡（10：10）→（10：40）→白岩様（10：50）→高取山山頂（12：00 昼食・記念写真撮影）12：50 発 →幕岩（13：00）→桂木観音→虚空蔵尊（14：20）→大宮神社 15：00→金明水・銀明水→法恩寺・記念写真（15：30）解散 16：00

で行われた。

探勝コース（所要時間 6～7 時間）

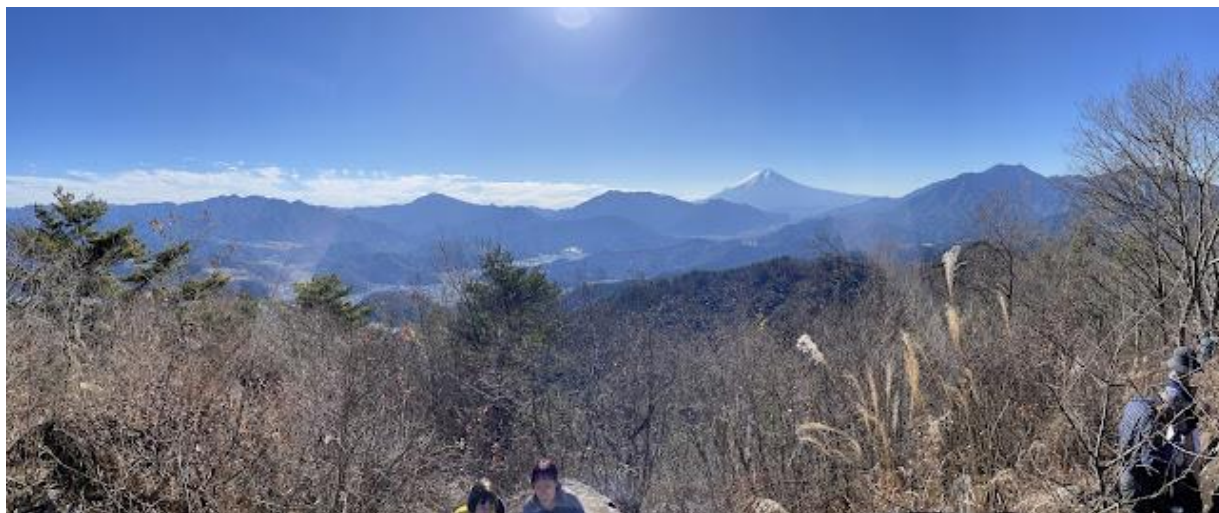
法恩寺→越生神社→高取城跡→白石様→大高取山山頂→幕岩→桂木観音（柚子刈り）→虚空蔵尊→大宮神社→金明水→法恩寺

緑の数字は別表「大高取山観察コースで秋に観察できる植物」の番号
 ▲ 針葉樹林 □ 広葉樹林 ○ 果樹園 ——— 郡市・東京都の区界



【自然保護委員会報告】2022年忘年山行「高川山」

自然保護委員 飯村俊夫



日時：2022年12月10日～11日

山域：山梨県高川山

参加者：渡邊委員長ほか8名

天候：快晴、ほぼ無風

記録：

9:00JR 中央線初狩駅集合

9:10 スタート

10:50 男坂を歩き高川山頂上着…たくさんの人が景色を楽しんでいた

陽光の中、秀麗な冬の富士山を眺めながら昼食

集合写真を撮って下山

13:50 初狩駅着…日帰り登山者は電車で帰路へ

1泊者は横山車にて塩山の宿（廣友館）へ…夜更かしをして大いに友好を深めた

翌日解散後、有志は塩山ゆかりの塩の山・甘草屋敷など歴史探索を行い帰路へ



最高の天気

(写真：金丸、大室)

【自然保護委員会報告】「白馬岳 高山植物観察山行」

自然保護委員 横山真一

日時 2022.7月23日(土)～25日(月)

メンバー構成

- ・リーダー：横山真一 ・サブリーダー：飯村俊夫、
- ・植物解説：龍久仁人、
- ・写真：金丸一豊（報告書スナップ写真）、稲越洋一（添付写真/種名付記）
- ・記録：金丸一豊
- ・隊員：渡邊泰子、大室昌久、行方真由美、萩原みか、中嶋信隆（山行委員）、
轟 涼、奥田通孝、自然保護委員長・渡邊嘉也 13名

自然保護委員会の会合において、どこか「高山植物を見に行きませんか」という話があり、今回の山行を計画しました。

会員の中には近々80才を迎える方や初めて3000m級の山に登る人もいるため、リーダーとして技量や体力を知る必要があり、白馬岳に登る2週間前に足慣らしを兼ねて上越の平標山を歩きました。

■7月23日

予定より早く白馬村に着いたので「姫川源流自然探勝園」に行った。ヒスイが採取できることで有名な姫川の源流である。探勝園の観察では、途中ネズミを飲み込み込んだのかお腹を大きく膨らませたマムシに出くわし一同冷やしたが、「腹を膨らませたマムシは人を襲わない」とのことで。親梅湿原を一通り観察し、ミツガシワ、エンレイソウ、コオニユリ、ギボウシ、ドクゼリ、クサレダマ、サワヒヨドリソウ、アンジェリカ（セイヨウトーキ）、サワギキョウ、サワヒヨドリソウ、オタカラコウを観ることができた。（渡邊記）

■7月24日

昨日は白馬村の山麓のホテルに宿泊し十分な休養をとり登山口の猿倉へ向かう。朝ホテルから見た白馬岳のモルゲンロートは素晴らしいものであり今日は良い天気になりそうだ。

猿倉は登山者で混んでいました。また駐車場も一杯で道路わきに停めている車もあり、タクシーを予約したのは正解でした。朝食をとり、登山届を提出して出発。

1時間ほどで白馬尻に着くと前方にこれから行く大雪渓と白馬岳の山並みが大きくなり、空も青く、夏山の登山日和となる。

雪渓に出るところでアイゼンとヘルメットを付ける。

ゆっくりゆっくり登り、後から遅れている人がいないかと気を付けながら、適度な休みを取りながら登る。



葱平手前の大きな岩場でメロンと雪溪の雪でカキ氷を食べながら大雪溪の大きさと素晴らしさを味わう。又、雪溪上部の白馬杓子岳は崩れ落ちそうな岩になっている。



雪溪にゴロゴロ転がっている岩はこの山が多いのでないだろうかと思う。



葱平に着きアイゼンを外す。ここからが白馬岳花園の始まりです。

登山道の両側には数多い高山植物が咲いている。



メンバーの方は皆夫々に写真やメモを取りながら登る。メンバーの中には植物について良く知っている方がいて、彼に聞きながら進む、数多い花の中、ミヤマキンポウゲ、シナノキンバイの群落、ハクサンフクロ、クルマユリ、ウルップソウ、テガタチドリなど印象的でした。



小さな雪溪をトラバースし避難小屋を過ぎ、15 時山荘に到着。

個室を予約していたので、夕食の時間まで各自くつろぐ。

山荘裏の稜線に出ると劔岳、立山が雲の中から微（かすか）に見えた。

山荘の夕食が今ではバイキングになっていることに驚きました。

夕食後の 8 時過ぎ外に出て星座の観察を行う。晴れたので夏の三角形、サソリ座など良く見える。特に、火球には驚かされました。約 1 分間近くの長い時間明るかったので大火球と言えるのだろうか。



■7 月 25 日

6 時、山荘を出発し、白馬岳山頂に向かう。

山頂で記念撮影後、白馬大池に向かう。登山道左の富山側の緩やかな斜面にはコマクサが咲いている。



三国境から小蓮華までの緩やかな稜線歩きは、気持ちの良い山歩き、メンバー 13 人も体調が良さそうだ。

船越の頭を過ぎ雷鳥坂に掛かる時、登山道の真ん中に雷鳥を発見する。山に来て雷鳥はよく見かけるが、道の砂地の中で砂遊びをしている姿を初めて見た。なかなかその場を逃げないので前に進めず、しばしの間、皆で写真を撮りながら貴重な体験をした。

白馬大池で昼食後、安山岩のゴロゴロした岩を登り、乗鞍岳へ、ここから雪田でのスリップに注意しながら天狗原まで、天狗原は湿地帯で登山道は木道になっていて見晴らしが良い。ワタスゲの群落を見ながら柵池ロープウェイ乗り場へ向かう。ゴンドラ最終の 17 時に何とか到着。

【花図鑑（作成中）】

番号No.	名称	イメージ							
223									
229									
232									
346/247 383/284	ミヤマカタマツ 秋葉が美しい								
251	オミジカマツ? 葉がモミシジメ								
356/267 379/418 513	ミヤマキンポウゲ 花びらに先黄変り								
379/415 500/543 1014	ハクサンフクロ								
377/389 400/402 524/1013	クルマユリ								
384									

番号No.	名称	イメージ							
387/761 786/802	ミヤマクワガタ								
393/394 406									
398/403									
408/409 523/532 562	チガタチドリ?								
410									
425/426									
430	シロカマキリ? 田平(飯沼)から?特産								
440/456 469/470 612/618 620/957	ハクサンシキザ								
451/486 490/518 806	シナノキンバイ								

【安全登山講演会】「尾瀬 原の小屋 管理人の話」報告

安全登山委員 小玉和孝

日時：2022 年 12 月 7 日（水）19：00～21：00

場所：浦和コミュニティセンター 第 1 3 集会室

講師：高妻潤一郎（JMGA 日本山岳ガイド協会認定登山ガイド ステージ 3）

参加者数：47 名

(1) 尾瀬の魅力と小屋の紹介

- ・尾瀬は、群馬、新潟、埼玉県にまたがっている。
- ・原の小屋は、尾瀬ヶ原の見晴らし地区にある。（同地区には、6 軒の山小屋がある）見晴し地区は、鳩待ち峠から約 10 km の距離にある。
- ・原の小屋は、燧ヶ岳から降りてくる道の最初にある小屋であり、下山後、体調が悪くなった人が最初に飛び込む小屋である。
- ・小屋の建立は昭和 34 年（1958 年）、今年で 64 年になる。
- ・原の小屋の名物料理は、釜めし（数 10 回以上の試行錯誤を繰り返した後に完成）
- ・尾瀬の四季の情景の紹介：初春の尾瀬～春の尾瀬～初夏の尾瀬～夏の尾瀬～秋の尾瀬～10 月小屋閉め
- ・2020 年コロナ禍の中で、小屋のメンテナンス状況の説明があった。
- ・冬の山小屋の雪下し作業の説明があった。
- ・2022 年原の小屋でのヘリコプター救助要請は、5 件。
その他事故事例の説明があった。

(2) 遭難事故の対処及びセルフレスキュー他

- ・御池小屋救助記録より
 - 6 時：事故発生
 - 9 時 10 分：南アルプス警察署より、小屋に連絡あり
 - 9 時 20 分：男性 3 名が小屋を出発
 - 10 時 10 分：傷病者と合流、評価（全身観察）、手当開始
 - 11 時 10 分：ヘリコプターによる搬送
 - *救助のビデオを見ながら説明があった。
- ・傷病者の評価に関して
 - 自力歩行ができるかどうかで対応が大きく変わる。
 - 全身観察する。（オーバートリアージの観点で判断）
- ・傷病者に対する介助に関して
 - 喘息の傷病者に対して、吸引の際、手を添えてあげるとは OK。
 - 糖尿病の傷病者に対して、処置の際に手を添えて介助することは、OK。
 - 直接処置をすることは、NG。

- ・ヘリコプターへの合図に関して
身体全体でYの字で合図する。
ツェルトを振る、発煙筒、ミラーによる合図も有効。
- ・傷病者を発見した場合
聞き取り、メモを取る。(症状、アレルギー、内服薬、病歴、最終食事摂取時間等)
高妻さん作成の救助記録シート(傷病者)、救助記録シート(通報者)を参照。

(3) アンケート結果(主な意見)

① 参加して思うこと

- ・山小屋の実態が良く分かった。(山小屋の苦労が分かった)
- ・現場のビデオが良かった。(救助現場を実感した)
- ・傷病者への対応策、動画が参考になった。
- ・救助記録シートは、常備したい。(救助記録シートは有効)
- ・継続的な受講が大切(繰り返し学習の必要性)。

② 次回の希望テーマ

- ・海外の経験談
- ・尾瀬の将来像
- ・現場のレスキュー



尾瀬・原の小屋を紹介



傷病者に対する介助

埼玉支部・山岳古道調査プロジェクトに関する令和 4 年度の進捗報告
山岳古道調査 P J 副実行委員長 松本敏夫

全国山岳古道調査「日本の山岳古道 120 選」は 2020 年 9 月 26 日に日本山岳会・山岳古道調査プロジェクトチームがスタートし、埼玉支部では 2020 年 12 月に、大山支部長を実行委員長に、埼玉支部山岳古道調査プロジェクトを立ち上げました。埼玉支部が担当する以下に示す 4 山岳古道(コース)の進捗状況を報告します。なお、実際の活動状況は、各々の下見調査報告書を埼玉支部ホームページに掲載しておりますので、詳細は報告書を確認ください。

1. 十文字峠越え(長野県・梓山から秩父市栃本)。

令和 4 年 6 月 10 日～11 日に実施済ですが、梓山から十文字峠間は、信濃支部と協議・協力して調査することが推奨されます。

2. 雁坂峠越え(旧秩父往還のうち、山岳古道が含まれる秩父市・贅川宿から杉ノ峠を経て、落合、栃本、雁坂峠、山梨県・川浦口留番所跡間を調査予定)。

現在、山梨市・三富から川浦口留番所跡間を残して、旧秩父往還の予備調査は実施済です。また、必要に応じて山梨支部と協議・協力して調査することも考慮すべきと考えられます。

3. 三峯山の参詣道(三峰口駅から巢場新道で強石、大達原、大輪、三峯神社表参道、三峯神社、妙法ヶ岳及び大陽寺並びの大血川沿いの参詣道)。

令和 5 年 3 月までに巢場新道(贅川宿から強石間の秩父往還は国道 140 号を歩くこととなりますが、国道沿いは歩道がなく、交通量も多く、歩くのに危険を伴うため、荒川右岸の道に変更)から大輪、または大血川沿いの参詣道に関する予備調査を計画中で、令和 5 年 6 月以降に大輪～三峯神社～大陽寺の山岳部分の調査を実施予定です。

4. 奥武蔵古道・信仰と峠道(子ノ権現及び高山不動に係る参詣道等)。

子ノ権現の表参道は令和 3 年 9 月に調査済です。奥武蔵の主要稜線及び越生町・ときがわ町・飯能市・秩父市を結ぶ峠道に関する予備調査を実施中です。

その他としては、秩父往還の枝道として知られる寄居から釜伏峠を経由して秩父に至る「釜伏峠越え」の一部を、令和 4 年 3 月に下見調査を実施しましたが、残りの釜伏峠から秩父を実施予定です。古道調査は予備調査や探索登山等を随時実施し、資料の収集や実地調査等の蓄積が必要と考えられます。

一方、日本山岳会創立 120 周年記念事業の一環として、山岳古道調査プロジェクト主催で講演会を 2 回実施しました。初回は、2022 年 1 月に講演会「埼玉の街道」と題し、講師は杉山正司氏(埼玉県立歴史と民俗の博物館・主任専門員兼学芸員)です。2 回目は、2022 年 8 月 11 日に山岳古道調査プロジェクト兼「山の日」記念事業として、埼玉県立川の博物館・研究交流部の大久根茂部長を講師に、山岳古道(峠道を含む)に関する講演会を開催しました。

埼玉支部の山岳古道調査プロジェクトは日本山岳会創立 120 周年記念事業の一環ですので、できるだけ多くの会員の皆様に調査活動に参画いただき、歴史と文化や伝説に深く根差した埼玉の山岳や峠道を楽しむきっかけとしていただければ幸いです。



十文字小屋にて



雁坂小屋にて

【埼玉やま塾】2022年度 第4期 報告

第4期担当 副支部長 轟 涼

初心者向け登山教室「埼玉やま塾」も4回の開催となりました。

日本山岳会としての使命の、安全登山と自立した登山者を育成することの実践と、新しい仲間を迎えて若返りを図りたいと考えての開催です。

そして今や「埼玉やま塾」は、埼玉支部の活動の大きな柱の一つとなりました。

3期ごとを一区切りとし、1期から4期まで開催済ですが、5期6期の計画も決定しています。

すべての開催で、講習体制は、平川陽一郎会員（現理事、ガイド資格者）を講師兼コーチとし、支部会員でサポート体制を構築しました。サポートチームには、特に4期からは「埼玉やま塾」卒業生が多く加わりました。

受講生は、原則として登山初心者で未組織の方。募集定員は15名（3期のみ20名）。

第1期 手探りで、定員には届かず始まりました。あまりしつこい勧誘はしないと遠慮したら、逆にもっと詳しい説明が欲しかったといわれました。

第2期 既会員がやま塾に参加、一緒に講習を受けながら山岳会について知らせることができ、入会が一気に増えました、

第3期 はキャンセル待ちで第4期が埋まるほどと、問い合わせも申し込みも多かったです。多くの仲間を迎えることができました。

しかし、コロナの影響で開催は中止することに。そして待望の第 4 期が、第 3 期に申し込みながらキャンセル待ちで二年も待ってくれた方をも迎えて始まりました。募集を開始して、一日でいっぱい!

この間に、講習内容もスタッフも進化を続け、スタッフの参加者への対応も身についてきました。受講生の満足度も高く評価されているようで、3 期までは店舗へチラシの配置をお願いしたりしましたが、第 4 期は HP で公開するとあっという間に定員に達し、チラシを刷る必要がなかったほどでした。また、第 2 期～3 期生から 13 名 (全スタッフ 21 名中) がサポートメンバーに参加するまでとなっており、やま塾卒業生のサポートも有効でした。

コロナ対策としては、毎回チェックシートの提出で体調管理をし、机上では換気への配慮などをしながら開催、YouTube 配信も導入しました。

さて、4 期はどのように進めたか、報告しましょう。

講習プログラムは、机上講習 4 回 (対面と欠席者対応として後日 YouTube でも配信)

平川講師の熱い机上講習と 50 ページを超えるパワポ資料 (平川講師作成) とともに、実地に向けた学びを繰り返し、実地 4 回で山小屋泊とセルフレスキューの心得までを学びました。

机上第 1 回目、5 月 14 日 「山と平地の違い、山で行うべき事としてはいけない事」

スタッフとの顔合わせもしました。これからよろしくです。

実地第 1 回目、6 月 5 日 大高取山「登山前の準備と歩き方と休み方、独図の基礎」

足並みがそろって楽しいスタート。

机上第 2 回目、6 月 11 日 「安全な登山用品と一般用品との違い、気象について」

登山用品はなぜ高いのでしょうか?

実地第 2 回目、7 月 3 日 武甲山「暑さと雨の行動対策・用具の使い方・地形の読み方」

雷と豪雨に逢いました。いきなり凄い体験です。レインの使い方を実践してしまいました。でも、こんな時に平川講師と山岳会のベテランと一緒にだと、判断や対応などを間近に見ることができ、とてもいい経験になります。

机上第 3 回目、9 月 3 日 「計画の組み方と読図、計画書の作り方事故防止対策」

遭難防止に計画書を作ることは大変有効だと言われてます。

実地第 3 回目、9 月 11 日実地 伊豆ヶ岳「ロングコースの対応、岩場と鎖場通過」

岩場での長い鎖を体験。岩の下りが意外と大変でした。ロングコースも歩き通しました。膝の痛みへの対応などプロの技を見ることができました。

実地第 4 回目、10 月 8 日～9 日 雲取山「ロングコースの歩き方、寒暖差の対策、山小屋泊の注意」

2000m 超えの百名山。山小屋に一泊しました。日帰りとの違いを実感できました。

机上第 4 回目、11 月 6 日修了式 「遭難事故の対処とセルフレスキュー、事故を防ぐための対策」

事故にあってしまったらどうしたらいいのか? そうならないために何をしたらよいか? しっかり学びました。

そして、修了書を、大山支部長より授与されました。



講義(座学)



実技(大高取山山頂)



実技(伊豆ヶ岳の岩場)



実技(伊豆ヶ岳山頂)



実技(雲取山山頂)

現時点で、第 4 期「埼玉やま塾」での参加者 14 人（1 人直前辞退者が出たため）中 11 人がお仲間になりました。実に 78%の加入率となりました。

第 4 期は特に、机上・実地ともに出席率が非常に高く、高加入率に繋がりました。この素晴らしい成果は、やま塾の運営が狙い通りにできたためと考えられます。1～4 期で延べ 35 人の入会を数えました。

また、多くのやま塾卒業生に、サポートスタッフとして参加してもらいました。入会したばかりのメンバーにはいきなりですが、スタッフとしてサポートをする体験を通じて、ステップアップにつながればと思っています。

まだ、「埼玉やま塾」は続きます。



靴ひもの結び方講習



登山前の準備運動(ストレッチ)



ストックの使い方・歩き方 実地講習



山小屋での「憩い」

同好会 平日山行倶楽部 報告

11月 絶景の富士 鉄砲木ノ頭～高指山 山行委員 坂倉理恵

参加者 5 名がバスタ新宿に集合した。ずっと参加したかった平日山行倶楽部での初めての山行である。わくわくとちょっぴりの緊張も楽しみながら、高速バスは山中湖へと向かった。

まずは山中湖畔の登山口から鉄砲木ノ頭を目指す。どーんと聳える大きな富士山を時折り振り

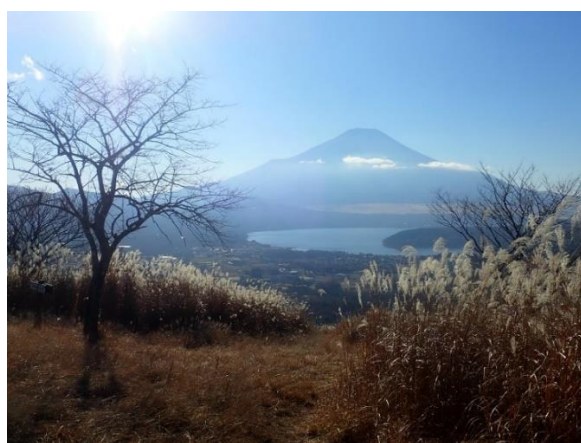
返りながら、背の高いススキの間を登って行く。クジラの形をした山中湖の青と薄化粧の富士山が美しい。

山頂で昼食をとり、次は高指山を目指す。登山道を覆う落ち葉の感触が、サクサクと心地良い。道も歩きやすく、なんと気持ちの良い稜線だろう。着きそうできず、ついに着いた高指山の山頂からは、息を飲むほどの絶景の富士山が！ 個人的には、高指山から見た富士山の方が好きかもしれない。じっくり絶景を堪能し、後ろ髪を引かれながらもポコポコと標高を落としていった。

お天気が味方をしてくれたし、ペースも丁度良く、良い山行だったなあ。おまけに高指山頂からスマホで予約した帰りの高速バスが残り 5 席と奇跡のようだった。皆さんに「ファインプレイ！」と褒められて、とても満たされた気持ちで帰路に着いた。参加された皆さま、楽しい一日をありがとうございました。



鉄砲木の頭山頂の絶景

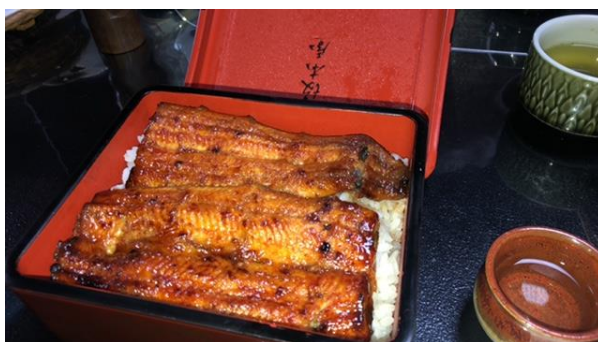


高指山から午後の富士山を望む

同好会 平日山行倶楽部 報告
12月 破風山と鰻重 副支部長 轟 涼

登山歴の浅いためか、ただガツガツと登ってきましたが、ゆっくりとおしゃべりをしながら登るのも楽しい！強風であり長居はできませんでしたが、開けた山頂から見える山々の名前を教えてくださいました。破風山って眺望が素晴らしいのですねー！

コロナでなかなかできなかった下山後の集まりでしたが、美味しい鰻重と楽しい語らいも、登山の一部と思いました。山って、奥が深い～！



車中で乾杯！当初の参加希望者が減って、4人になったが濃厚な会話を楽しめた山行だった。

「山の本棚」シリーズ⑥

会員 小原茂延

「山の本棚」シリーズ ⑥



著者 尾崎喜八 像画自原ケ美

尾崎喜八 1892.1.31 ~1974.2.4 (明治 25—昭和 49)

■「山の絵本」

岩波文庫 1993. 5 第 1 刷

底本は「尾崎喜八詩文集」4『山の絵本』1959



カバー絵はヘルマン・ヘッセ
高校時代、山に登り始めた頃に
新宿紀伊国屋で旧版を買ったよ
うに思う。一読して憑りつかれ
てしまった。その珠玉の表現、
文言、流石に詩人だ！対象に
なっている武蔵、甲斐、信濃の
山々に憧れを抱き登山にのめり
込んだ。

すぐ登りに行ったのが小金沢連嶺の大蔵高丸であり、神津牧場周辺だった。

年譜 (本人及び追補)

明治 25 年 東京市京橋区南小田原町生まれ。喜三郎長男,両親離婚 継母原島しげ 大井町の神山宅に里子となる。

〃 29 年実家に戻される。京橋区本港町の回漕問屋 隅田川鉄砲洲

〃 31 年築地小学校首席,生母面会

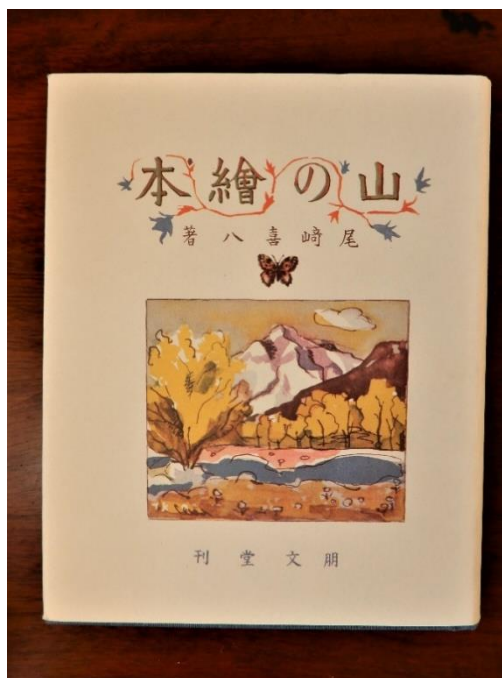
〃 37 年京華商業学校入学 父は不動産、株式投機に転業

〃 42 年京華卒業,中井銀行に勤務 文学雑誌を読み耽る

〃 44 年高村光太郎,トルストイに傾倒。銀行を辞め三省堂器械標本部入社,動植物標本,理化学,文学と理科が自然に合流した。

〃 45 年徴兵検査丙種不合格,本郷駒込の光太郎のアトリエ訪問

大正 2 年三省堂標本部閉鎖のため 辞める。ロマン・ロランに熱中



初版本は 1935 年(昭和 10 年)朋文堂 覆刻版 1978(昭和 53 年)大修館書店

*2018 年の蠟梅忌(尾崎喜八の忌日 2 月 4 日頃開催)で、この覆刻本を宝物のようにしていた中年の方を見掛けた。(ここ数年蠟梅忌は開催されていない)

大正 3 年塚田隆子と恋愛,10 月光太

郎が社迄来て、発刊間もない
「道程」を私に与えた。ルカ伝

〃 4 年父と衝突、廃嫡となる。

〃 8 年隆子スペイン風邪 2/4 危篤

幽冥の界で結婚,5 日早暁死す。

ベルリオーズを聴く,朝鮮銀行

〃 9 年朝銀をやめ京城から帰京,西
片町下宿,光太郎と行き来多。

光太郎に伴われ荏原郡平塚村下

蛇窪の水野葉舟宅,実子(みつこ
15 歳のちの妻)を知る。

〃 10 年長谷川巳之吉の「詩聖」に
投稿し田中冬二他を知る。高村ア

トリエで高田博厚を知る。

〃 11 年(30 歳)最初の詩集「空と樹
木」出版,高村と千家元麿に献

じ、ロマン・ロランにも送る。

〃 12 年関東大震災に実家に駆け付
け、7 年の背離・不孝は消ゆ

〃 水野実子と結婚

大正 14 年長女栄子出生、昭和 2 年
長男朗馬雄(翌年流感で亡くなる
ロランより篤い追悼)

昭和 3 年~6 年この間に未知の登山
家河田みき(木へんに貞)氏の「一
日二日山の旅」を読み感銘を受け
る。「登山によって救われた私は、
そこに新しい支柱を見出した」昭
和 7 年~10 年 山や高原の旅、8
年に詩集「旅と滞在」、戦後の昭
和 21 年 9 月 信州富士見村に 7
年を過ごす。〃 41 年鎌倉市山ノ
内に移る。

昭和 49 年 2 月 4 日鎌倉で病没

■「山の絵本」収録作品

絵のように

- ・たてしなの歌
- ・念場ヶ原・野辺山ノ原
- ・花崗岩の国のイマージュ
- ・神津牧場の組曲
- ・御所平と信州峠
- ・大蔵高丸・大谷ガ丸
- ・蘆川の谷
- ・新年の御岳・大岳
- ・高原にて
- ・一日秋川にてわが見たるもの

画因と素描

- ・山への断片
- ・木暮先生 (詩と反歌)
- ・秩父の王子 (注 原 全教を評して)
- ・松井幹雄君の思い出

・一日の王
他 11 篇

解説

年譜にあるように、尾崎が山に魅かれるきっかけは
河田の著書「一日二日山の旅」によるものであったと述
懐しているが具体的出会いはよく分からない。

この「山の絵本」文庫版の解説者である串田孫一が尾崎
との出会いを書いている。「昭和 5 年か 6 年。そう言われ
てみればその頃である。秩父へ向かう汽車の中で、偶然
尾崎喜八という人に紹介されてから、昭和 49 年に亡くな
る迄半世紀にもそう遠くない間のお付き合いが続いてい
た・・・」とある。そして後段で尾崎を紹介したのは河
田みきであったという。「霧の旅会」の主要メンバーであ
る。

追記：尾崎喜八は日本山岳会会員となり、戦後、富士見
に居た関係で、同じく大町に疎開していた榎有恒の後を
継いで信濃支部長を数年務めた。また、ウェストン祭で
自作詩の朗読を長く務めた。

「ペンリレー」第2回 「緑と水と雪が好き！」

安全登山委員 長谷部 康子

山の楽しみ方は様々です。私は登山を始めて未だ4~5年の若輩登山者ですが、最近になって自分の好きな登山スタイルがわかってきました。

大人数で有名な山をワイワイ・ガヤガヤ登るのも楽しいですが、単独もしくは仲間と登山者の少ない静かな山を鳥のさえずりや動物の鳴き声、風の音を聞きながら歩く登山に癒されます。そして、コンパスと地形図を持って歩くバリエーションルート登山はプチ冒険のようでワクワクします。自分のいる場所が地形図上でピッタリわかると答え合わせをしているようで嬉しくなります。道標も踏み後もない場所を歩くので、知識と経験がなければ遭難する可能性があるため講習会に参加して勉強しています。

夏は沢登り。こちらも冒険のようで楽しいです。水をわざと浴びながら登ると、自然との一体感を更に強く感じる事ができて最高です。高い場所が苦手な岩登りはあまり好きではないのですが、木漏れ日に輝く水と苔と岩の素敵な風景のためなら頑張ろうと思います。

冬は雪山。静寂、凜とした空気感、厳しい寒さの中にある自然美は素晴らしいです。若い頃にゲレンデスキーをしていたのでバックカントリースキーに憧れがあり、挑戦しようと練習しているところです。

歴史ストーリーのある場所にも興味があります。トロッコのレール跡や石仏などを見て、昔の人々の暮らしに思いを馳せながら歩くのも楽しいです。時代が変わり、廃道となった登山道も多いのですが、そのような登山道を復活させるプロジェクトがあるそうで興味津々です。

もともとは登山する人の気持ちが全くわからず、「何で辛い思いや危険を冒して山に登るのだろう？」と思っていました。しかし、気が付けば一般登山者が手を出さない危険な領域へ。「趣味はエスカレートするもの」と聞きましたが、本当にそうだなと実感しています。リスクを理解し背負ってでも登りたくなる魅力が山にはあると今は思います。知識と経験を習得しながら楽しんでいきたいです。



新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《平本 真二郎 会員番号 17005 》

昨年 1 2 月に入会致しました平本と申します。昨年 1 1 月に荒船山へ妻と登山に行った際、グループ登山をされている一行の中に会社の先輩である方に偶然お会いし、山岳会の話聞き面白そうだと思います。これまでは毎月のように車で山に出かけ、2 人での日帰り登山がメインでした。今後は支部活動に参加することより山の知識に加え、実戦でのレベルアップをしながら楽しい山行をしていきたいです。支部の山行に積極的に参加して行きたいと考えていますので宜しくお願い致します。

《平本 美恵子 会員番号 17006 》

2022 年 12 月に山岳会埼玉支部に入会しました平本美恵子です。2013 年に蓼科山に登ったことから山の魅力にハマりました。それまでは年に 1~2 回、秩父や奥多摩など近場のハイキング程度の山行でした。ある時、職場の同僚が「八ヶ岳の蓼科山は面白いよ」と聞きました。“えっ、私が八ヶ岳…無理、無理、無理”と思いましたが、色々調べて登ってみると、樹林帯から岩稜帯と変わる風景と広い山頂の岩の絨毯、そこから見える山々の景色と頑張った後のご褒美の素晴らしさから山にのめり込んでいきました。基本的な知識やスキル、マナーを身に付けて山をもっともっと楽しみたいと思い入会しました。山小屋をつないで南アルプス、飯豊山、北海道の山をめぐる山旅をやりたいなと思っています。

《高倉 洋一 会員番号 A0503 》

東久留米市在住の高倉と申します。2022 年度「埼玉やま塾」の活動を通じて埼玉支部の方々に親しみを感じ、入会させて頂きました。60 を前に山歩きを始め、一人の時は吾野近辺をホームグラウンドとして歩いています。初心者ゆえ今が一番楽しく感じるのだと思いますが、仕事中心も少し(?) 地図を見ては登山計画の妄想に浸っています。これからインドアクライミングなども含め少しずつ山の楽しみ方の幅を広げていきたい、諸先輩に学び、埼玉支部のいろいろな活動にも関わりたいと願っています。どうぞよろしく願いいたします。

《吉田 由美 会員番号 A0507 》

埼玉で生まれ育った私も、東京に住んでいる時間の方が長くなりました。子育ても落ち着いて、木の匂いや、土の柔らかさ、枯れ葉を踏む音に癒されながら低山を歩いていましたが、もっと高い山の景色を見たいと思うようになりました。基礎を学びに山塾に参加させていただき、準会員に入会しました。年齢的にも不安な事が多いのですが、皆さまに教えて頂きながら楽しく山行に参加していきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

《宮崎 則子 会員番号 A0509 》

第四回「埼玉やま塾」終了後に入会しました。野山を歩くのが好きですが、初心者なので自分がどの程度体力や技術があるのかよく解っていません。「日本百名山」「日本百低山」などの番組が好きで、紹介された山を登ってみたいくなります。「登りたい山と登れる山は違う」を心に留めて皆さんの山行に参加したいと思います。ご指導のほどよろしくお願ひします。

《亀山 綾子 会員番号 A0511 》

この度、埼玉支部の準会員として入会しました亀山と申します。登山歴は約 2 年と短いですが、奥多摩、奥秩父を中心に登山を楽しんでいます。昨年、友人の誘いで埼玉やま塾に参加し、登山の基本を学びました。普段個人山行では、避けて通る岩場や鎖場の練習が一番印象に残っています。登山では、四季折々の景色を眺め、その時期にしか味わえない空気に触れることにより、登山の醍醐味を味わうことが出来ますが、常に危険と隣り合わせであると頭の片隅に起き、この先も様々な山に登り苦手な岩場や鎖場を克服し楽しく登山が出来れば良いなと思っています。

《中根 洋子 会員番号 A0512 》

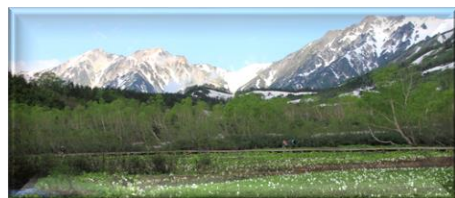
第 4 期「埼玉やま塾」をご紹介いただき入会させていただきました、中根洋子と申します。幼いころから密かに自然に浸るのが好きでした。コロナが広まる前までは、会社の仲間と年に数回低山ハイイクに行っていたくらいで、山らしい山の経験は最近です。体力の衰えを痛感するこの頃ですが、安全に無理なく山を楽しめるよう経験を積んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

《土田 利恵子 会員番号 A0513 》

「埼玉やま塾」からの入会です。単独行動が多かったので知らない事が多々あります。これから色々と学んで行きたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

《倉崎 知恵 会員番号 A0517 》

はじめまして、倉崎知恵と申します。コロナ禍でジムに通えなくなり、運動不足解消のため始めた登山でしたが、ハマりました。週末に奥多摩や奥武蔵を歩くことが多かったのですが、徐々に活動範囲を広げています。また、花や野鳥を見るのも好きなので、山へ行くとテンションが上がることが多いです。知識を増やして安全な登山を楽しみたいと思ひ、入会しました。どうぞよろしくお願ひいたします。



事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2023年3月8日現在

会員	123名	準会員	26名	計	149名
----	------	-----	-----	---	------

【入 会】

会 員			準会員		
17005	平本 真二郎 (狭山市)	12月	A0503	高倉 洋一 (東久留米市)	11月
17006	平本 美恵子 (狭山市)	12月	A0507	吉田 由美 (墨田区)	11月
			A0509	宮崎 則子 (北足立郡)	12月
			A0511	亀山 綾子 (入間郡)	12月
			A0512	中根 洋子 (さいたま市)	12月
			A0513	土田 利恵子 (調布市)	12月
			A0517	倉崎 知恵 (豊島区)	1月

【退 会】

会 員			準会員		
11508	熊谷 友昭	2月	A0375	森田 恭世	2月
14765	安瀬 善一	2月	A0414	竹下 智子	2月
14783	松本 廣二	2月	A0301	新田 香織	3月
16551	生田 詳子	3月			

◆ **2023 年度支部通常総会の開催について（お知らせ）と懇親会の（ご案内）**

下記のとおり 2023 年度通常総会を開催致します。また終了後、久々の対面で懇親会を開催しますので多くの皆様ご参加ください。

内容につきましては 3 月初旬に郵送した「総会の開催について(お知らせ)」を御覧ください。

2023 年度支部通常総会

1. 期日 2023 年 4 月 8 日（土） 13 時 30 分～15 時
2. 場所 浦和「埼玉会館」 7A 会議室
〒 さいたま市浦和区高砂 3 丁目 1 - 4
TEL 048-829-2471（代）

懇親会のご案内

- 1) 時 間 16 時 ～17 時 30 分
- 2) 場 所 伊勢丹浦和店 7 階「クローバールーム」

◆ **2023 年度より登山届の提出は事務局から安全登山委員長に代わります。**

2023 年度より登山届の提出・下山報告は飯塚 雅信安全登山委員長に提出してください。
飯塚委員長より JAC 遭難対策委員会に転送されます。

【提出先：飯塚 雅信 安全登山委員長】
masanobuiizuka@gmail.com

【編集後記】

毎年 2 月には私の所属するアルパインスケッチクラブの「山好きの山の絵展」があり今年は 3 2 回目の開催でした。

コロナの影響で開催中止の年もありましたが、ほかのイベントもそうであるように規制の緩和が進み例年のように開催できるようになりました。この絵展は名前の通り山好きの人たちが大好きな山を描いて発表するという山一色の展覧会です。山岳会あつてのクラブです。これからも山に登りつつクラブライフを楽しみたいと思っています。

埼玉支部もやま塾出身の若い会員が増えて活気がよみがえっています。新年度に向けて皆さんが積極的に参加されて楽しく充実した会になればと願っています。 (橋本久子)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第 38 号 2023 年 3 月 19 日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾 1910 林信行方

電 話：080-2256-4829 Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：<https://jac1.or.jp/saitama/>